

冬の風物詩 湯田河の松『雪吊り』のご案内

みちのく公園では、今年16日から18日にかけて南地区ふるさと村の古民家『釜房の家』植栽した湯田河の松に冬季間、雪が着雪し樹木が折れたりすることを防止する伝統的な造園（作庭）技法「雪吊り」を施します。ピンと張られた縄と曲線を描く樹形とのコントラストが、**趣のある冬の風物詩**としてご覧いただけます。

作業2日目（17日）の午前中、化粧縄を放射線状に張る作業が見どころでおススメです。（景観を左右するポイント）

場 所：南地区ふるさと村「釜房の家」

作業工程：11月16日（水）支柱の建込などの準備作業

11月17日（木）化粧縄を放射線状に張る作業（9時～12時）・袴編み準備（13時～16時）

11月18日（金）袴編み、根藁編み（9時～13時）、完成（16時頃）

※天候状況、作業の進捗により予定が前後することがあります。



資料配信先：宮城県政記者会・東北電力記者クラブ・仙南記者クラブ・福島県記者クラブ・山形県政記者クラブ

問合せ

国営みちのく杜の湖畔公園 みちのく公園管理センター
〒989-1505 宮城県柴田郡川崎町大字小野字二本松53-9
TEL 0224-84-5991(代) Fax 0224-84-5992
業務一課課長植物担当 渡辺 真人 広報担当 菅原 利之

【湯田河の松】

南地区ふるさと村「釜房の家」の庭に植栽された五葉松(ゴヨウマツ)です。釜房ダム建設によって水没した湯田河温泉にありました。樹形は3本立ちで、中央の幹を囲むように脇の2本が湾曲する特異な樹形をしており、その枝振りが翼を広げている鶴のようにも見えることから「鶴の松」と呼ばれ親しまれてきました。

木の根方から三方に並立し、中央の主幹は細く短い、左右の幹は太く7段の傘型をなして見事な立ち上がりであり、あたかも鶴が羽を広げた姿を形作っているのがこの名があります。

昭和43年、釜房ダム建設時に湯田河温泉から国道286号沿いの高台に移植され、平成16年に国営みちのく杜の湖畔公園内に再移植されました。2度の移植に堪えたこの松は、蔵王系の霜降り五葉松の珍木で、湯田川温泉開湯(西暦1854年)より古く、伝承は600年以上といわれ、川崎町の指定文化財でもあり、そして、「川崎町の宝」となっています。



樹種: マツ科ゴヨウマツ
幹周: 右1.1m、中0.9m、左1.1m 樹高: 6.5m
推定樹齢: 600年
所在地: 南地区ふるさと村釜房の家
所有者: 国営みちのく杜の湖畔公園

【雪吊り】

雪吊りとは、冬の間、樹木の枝に雪が付着し、その重みで枝が折れることのないよう縄で枝を保持する伝統的造園技法です。「湯田河の松」に施す雪吊りは、雪吊りの代表的手法である「りんご吊り」です。

樹木の幹付近に柱を立て、柱の先端から各枝へと放射状に縄を張る手法です。この手法は明治以降、西洋りんごの栽培が日本で始まり、りんごの実の重さから枝を守るために行った初期の技法に由来します。

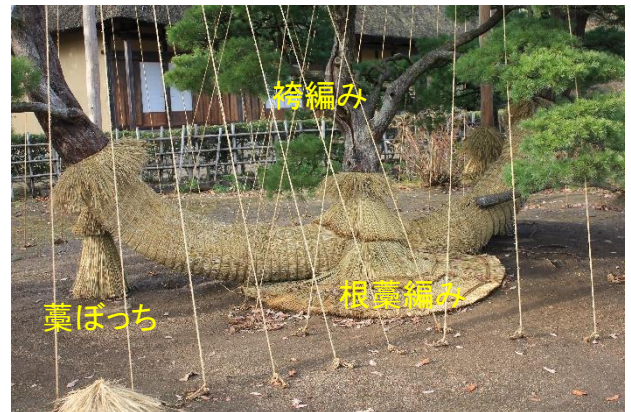


【雪吊りに合わせた化粧内容】

雪吊りには、雪から枝を守るという実用的な意味合いもありますが、その美しさから冬景色を演出する化粧の意味合いもあります。みちのく公園の「湯田河の松」の雪吊りでは、支柱の**高さ**が**左側約9m、右側約10m**(釜房の家を背景に見て)になります。

雪吊りの美しさと雰囲気をもより際立たせるため、**吊り縄(左側44本、右側50本)**※予定のほか、化粧として**袴編み**、**根藁編み**、**藁ぼっち**を根元に飾ります。

※根藁編みには根の凍害防止効果もあります。



※雪吊り作業は、みちのく公園への再移植の時から担当していただいている、古積造園土木株式会社(Tel.022-308-6334)により執り行います。

みちのく公園HP「花ギャラリー」にて随時更新中

<https://michinoku-park.info/flowers/>

